

2022年6月のてがたんは少人数・申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回てがたんは7月9日(土)で、テーマは「てがたん樹木検定・夏編」です。次回より定員を20名に変更します。ぜひご参加ください。7月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみみなさま、次回の下見は7月3日(日)です。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→鳥の博物館
- 観察日時と天気：2022年6月11日(土) 10:00~11:00 晴れ
- 参加人数：11名(大人9名、子ども2名)
- 市民スタッフ：8名(伊東茂子、石原直子、北村章子、木村稔、小泉伸夫、伴野茂樹、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

[*]は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ/クイナ科：オオバン/カモメ科：コアジサシ、アジサシ/タカ科：トビ/キツツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ/ヒバリ科：ヒバリ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボ/バッタ目：ヒメギス、キンヒバリ、ショウリョウバッタ、ヒシバッタ/カメムシ目：アワダチソウゲンバイ、ツツジゲンバイ/チョウ目：ベニシジミ、コムラサキ、キタテハ、キアゲハ、ナミアゲハ、モンキチョウ、キタキチョウ、モンシロチョウ、サトキマダラヒカゲ、ヒロオビトンボエダシャク、カノコガ/コウチュウ目：オオヒラタシデムシ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ウスモンカレキゾウムシ/ハチ目：コガタスズメバチ、セイヨウミツバチ、キムネクマバチ/ハエ目：マダラアシナガバエ、ハナアブの仲間、ヒラタアブの仲間

【クモ】ササグモ 【カタツムリ類】ナミコギセル*、オナジマイマイ*、ウスカワマイマイ*、ミスジマイマイ*、コシダカシタラ*

【草の花】ナデシコ科：ノミノツツリ、ツメクサ、コハコベ/ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/ケシ科：ナガミヒナゲシ/アブラナ科：マメグンバイナズナ、イヌガラシ/ベンケイソウ科：コモチマンネングサ/マメ科：コメツブツメクサ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ/カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ/アカバナ科：コマツヨイグサ、ユウゲショウ/ヒルガオ科：ヒルガオ/ゴマノハグサ科：トキワハゼ/オオバコ科：ヘラオオバコ、ツボミオオバコ/キキョウ科：キキョウソウ/キク科：コセンダングサ、ハルジオン、ハキダメギク、ウラジロチチコグサ、ブタナ、オニノゲシ、ノゲシ、ヒメジオン、セイヨウタンポポ/アヤメ科：キショウブ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ/イグサ科：クサイ/ツユクサ科：ツユクサ、トキワツユクサ/イネ科：ネズミムギ

【木の花】ブナ科：クリ、スダジイ/トウダイグサ科：アカメガシワ

6月の観察アルバム



今回のテーマは「元気に育て！鳥のヒナ」でした。ヒナを連れてきた鳥たちが数多くいた一方で、巣で死んでしまったツバメのヒナもいて、ヒナが大きくなるにはたくさんの困難があるのを実感しました。この時期ならではのヒナの鳴き声やしぐさをじっくり観察することができました。



今月の案内人
望月みずき・伊東茂子さん



①縄張りを守るキジのオス



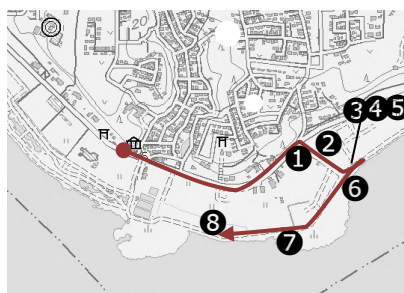
②さえずっていたオオヨシキリのオス



③親を待っていたムクドリの子鳥



④ツバメの巣と死んでしまったヒナ



歩いたルートと観察した生き物



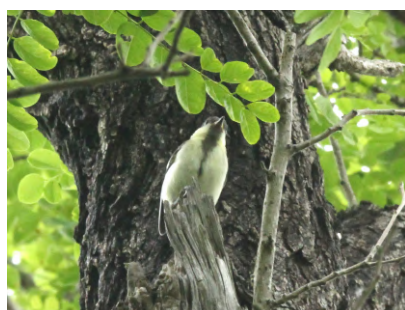
⑤満開だったクリの花



⑥葉の上で休むアオモンイトトンボ



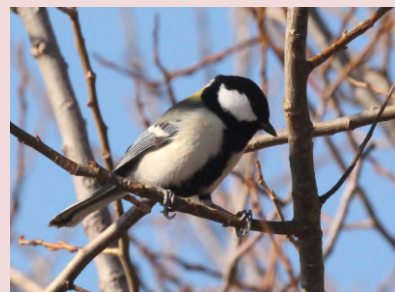
⑦吸蜜していたベニシジミ



⑧親より色が薄いシジュウカラの子鳥

今月の鳥 シジュウカラ (スズメ目シジュウカラ科)

シジュウカラは我孫子市で一年中見られる小鳥で、街中でもツピツピという鳴き声を聞くこともある身近な野鳥です。オスはお腹の黒い帯が太く、メスは逆に細いという点で識別できます。また、巣立ったばかりの幼鳥は全身淡い色合いをしているほか、お腹の帯が細く途中までしかありません。シジュウカラは状況に合わせて鳴き声を使い分け、互いにコミュニケーションを取っています。例えば親鳥が巣の中にいるヒナに対して「カラスが来た！（ピーツピ）」や「ヘビがいる！（ジャージャー）」と鳴くことで、ヒナは巣の中で伏せたり(カラス対策)、巣から逃げ出す(ヘビ対策)など、親子間で高度な言語コミュニケーションを取ることが近年の研究で明らかになりました。身近なシジュウカラの鳴き声にも注目してみてください。



シジュウカラのオス成鳥